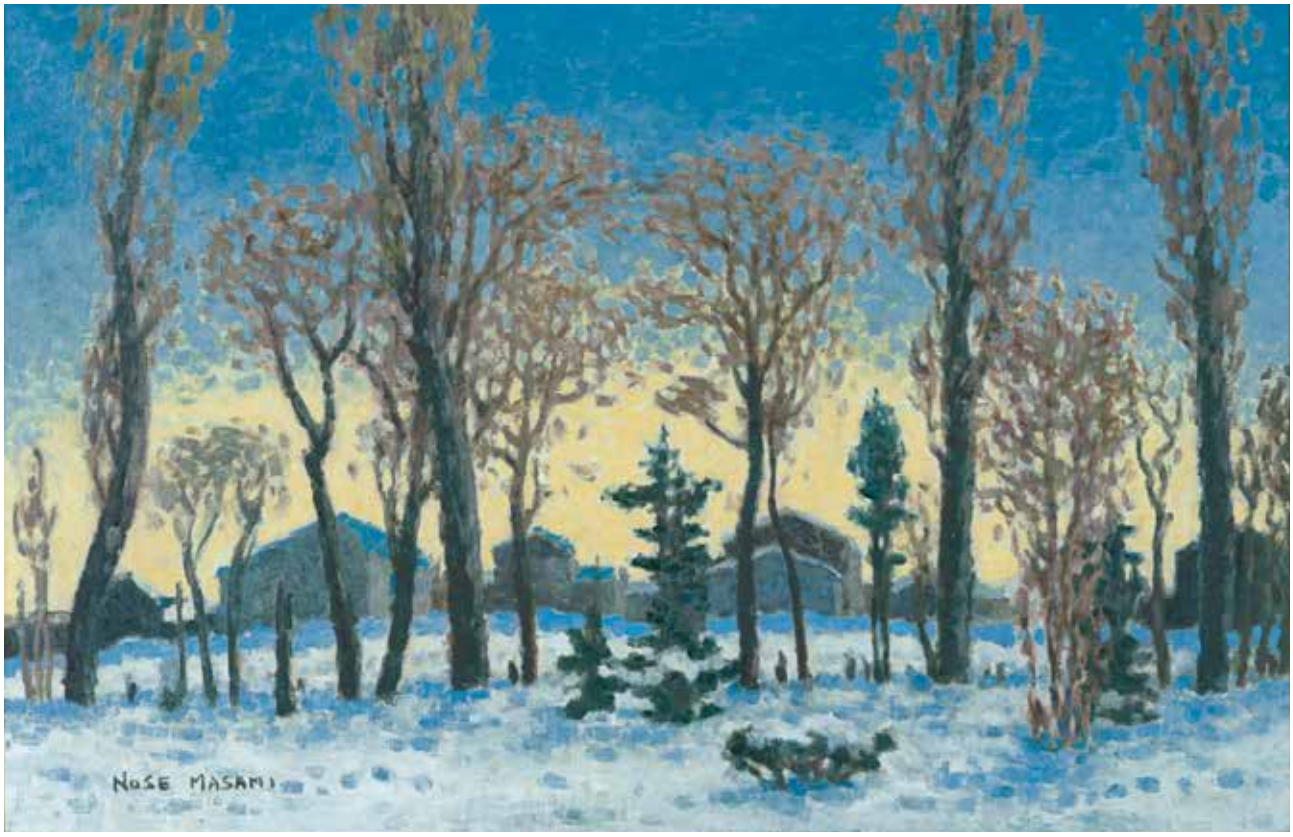
会報
アルテピア
第82号
2023年3月

一般社団法人 北海道美術館協力会
札幌市中央区北3条西18丁目2－7 新田ビル2F　TEL・FAX 011－644－4025
https://www.artepia.or.jp



能勢眞美《春近き日》

1960年　油彩・キャンバス　65.0×100.0cm（北海道立帯広美術館蔵）

雪が残り、まだ葉の生えてない木々。帯広にあった能勢眞美の自宅付近から見た景色を描いたこの作品は、冬の寒さ厳しい十勝の澄んだ空気を感じさせます。一方、家並みの向こうで青色から淡い黄色に変化する空や湿った水色の雪から、暖かな春のきざしを読み取ることもできるでしょう。爽やかで緑豊かな自然を描いたことで知られる能勢の作風の違った一面が見られます。実際に作品を近くで見ると筆致の柔らかさが分かり、少し遠ざかると個々のモチーフの輪郭がはっきりと現れてくるのは能勢作品の魅力的な特徴の一つです。

能勢眞美は1897（明治30）年、白老町生まれ。1904（明治37）年に札幌へ移り、札幌第一中学校在学中に画家・林竹治郎に油彩を学びました。20歳を過ぎてから本格的に画家を志し、道展の他に帝展など道外の公募展に出品するようになります。札幌時代には水辺の風景をモチーフとしてよく取り上げていましたが、戦後帯広市へ転居した後は、緑生い茂る木立を多く描きました。本作品は帯広へ移住して10年ほど経った頃の作品です。

耳塚里沙（道立帯広美術館学芸員）

札幌美術展　艾沢詳子 gathering ―集積する時間

Sapporo Art Exhibition　Shoko Yomogisawa

2023年4月15日（土）～6月11日（日）

札幌芸術の森美術館　学芸員　**佐藤 弥生**

札幌市を拠点に活動する版画家・艾沢詳子は、銅版画からそのキャリアをスタートさせ、生命のありようをテーマとしたモノクロの世界を作り上げてきました。二度の渡米を経て、従来の版画のあり方にとらわれない版の拡張ともいえる挑戦を続けます。やがて、それらは古紙やティッシュペーパーを素材とするインスタレーションの制作へと結実していきます。

本展では初期の具象的な銅版画のほか、近年精力的に取り組むアートとテクノロジーが融合する新作まで約80点を展観します。

集積する時間

1980年代に制作され、闘病を続ける実父を見つめた銅版画の作品群「病棟日記」「Waiting」には、病院の待合室で順番を待つ人々、ベッドでまどろむ姿、リハビリの様子など、日常のなかの瞬間が収められています。そこには、父の傍らに寄り添いながら、目の前の風景を逃すまいとするかのように、時間の経過とともに薄れてしまう感覚や印象を純化し、版に置き換える作家の視線が感じられます。後年集中的に取り組むことになるドローイング（素描）のシリーズでは、制作年月日が作品のタイトルになっており、連日制作されたことが分かります。いわば、艾沢にとって、制作は日々の記録を紡ぐ行為であり、これらの作品からは、日常の生活のなかで感じた印象、感覚といった曖昧なものを丁寧にすくい取り、自分の中に集積し、その輪郭を確かめるように形を与えていく作家の姿勢がうかがえるでしょう。

空間の痕跡

1990年、艾沢は札幌ケーブルテレビジョンの企画で出身地の夕張を訪れ、炭鉱の跡地に版画作品を設置します。選炭工場や団地などの建造物を巡り、場所のもつ痕跡をなぞるように作品を設置することで、子ども時代の夕張の記憶が呼び覚まされ、当時は気が付かなかった故郷への思いを再認識したといいます。作品を設置する空間の背景にあるものをすくい上げるこうした試みは、《石膏ドローイングインスタレーション》にも認めることができます。ギャラリーの床一面に、湧き出る水のように素描と石膏によるドローイングを展開した本作は、かつてサイダー工場跡地であった設置空間の成り立ちに思いを馳せて制作されたものです。本展ではこのインスタレーションの再制作作品が発表されます。芸術の森に滞在し、土地の記憶に思いを巡らせながら制作された本作は、見る者に作品が設置される場所の痕跡を想起させることでしょう。

1. 艾沢詳子《Waiting IX》1988 年　銅版画、紙（ロサスピーナ）　作家蔵

平面 − 立体

艾沢にとって、版画という平面の世界から、立体の世界へとその活躍の場を広げるのはごく自然な展開でした。「版画というのは、わずかコンマ何ミリというところでインクが立ち上がる」ものであり、版を彫るという点で立体と共通するという認識を持っていたことに加え、実際に刷られるイメージも、空間的な広がりを持つものでした。また、キャリアのごく早い時期から作品が設置される空間それ自体を作品化するという強い意識がありました。

2、3.「夕張でのインスタレーション風景」(「すぐ行ける旅II『夕張　風景の中の銅版画』」より／札幌ケーブルテレビジョン（現 ・ 株式会社ジェイコム札幌）製作）1990 年

4. 艾沢詳子《石膏ドローイングインスタレーション》1996 年
コンクリート床に石膏 ・ 鉛筆 ・ コンテ　作家蔵　撮影 ： 野田均

立体の世界における制作は、ティッシュペーパーをロウで人型に固めた無数のパーツを空間に設置するインスタレーション作品から野外展示、そして画像センシングシステムと協働する最新作に至るまで、近年ますます伸びやかに拡張しています。本展で新たに発表される、三次元画像計測の専門家である青木広宙との協働作品では、艾沢が空間に設置する人型の立体作品の周囲に、青木の設計するセンシング装置と照明がしつらえられ、来館者の動きに応じてＬＥＤが明滅し、光と影の呼応関係が生じます。本作は、艾沢が近年精力的に取り組むアートとテクノロジーが融合する分野横断的な制作の集大成であり、作家が魅せる新たな世界に没入することができるでしょう。常に現状を更新し、新たな挑戦を続ける作家の創造世界をお楽しみください。

5. 艾沢詳子《My friend》(部分) 2017 年　作家蔵　撮影 ： 大橋英児

近代美術館

トリック×イリュージョン！

4月22日（土）～6月11日（日）

「だまし絵」に代表されるような、見る者の目を惑わす作品は、古今東西で制作され、多くの人々に親しまれてきました。視覚をあざむく愉快なトリックや、現実にはありえないイリュージョンの世界には、鑑賞者を「！」とさせる驚きや面白さがあり、私たちの心をとらえてやみません。

美術家たちは、人間の視覚の不確かさや、無意識のうちに抱く先入観と固定観念を逆手に取ることにより、こうした表現を生み出しました。時にユーモラスに、また時に「見るということは何か」を問いながら、多彩なしかけを作品に込めてきたのです。

本展では、国内外の作家による絵画や彫刻、映像、メディア・アートなど、様々な手法によって作られた錯覚や幻想的イメージに着目し、約70点の作品をご紹介します。不思議で楽しい表現をご覧ください。

上田薫《なま玉子B》1976年
東京都現代美術館蔵

mima三岸好太郎美術館

所蔵品展　道産子が行く。

4月29日（土・祝）～7月5日（水）

今年は三岸好太郎（1903－1934）の生誕120年。そして当美術館の新館開館40年という記念の年。あらためて、日本近代美術史に輝かしいきらめきを放った画家・三岸好太郎の魅力に迫ります。

北海道・札幌に生まれ育った三岸好太郎は、北国ののびやかな（ときに厳しく荒々しい）自然や、洋館の建つ街並み、そしてともに生きた故郷の人々をこよなく愛しました。この北の風土に育まれた画家の感性は、独特の色彩感覚やロマンティシズムを作品にもたらしています。

新しい絵画の創造をめざして、激動する1920－30年代の美術界をたくましく進取的に、自由に奔放に歩んだ道産子・三岸好太郎。その個性的なまなざしを探ります。

三岸好太郎《大通公園》1932年　当館蔵

旭川美術館

笠間日動美術館コレクション
魅惑の西洋近代絵画
モネ、ルノワールからピカソ、マティスまで

4月15日（土）～6月25日（日）

19世紀から20世紀にかけて、ヨーロッパの美術界では、次々と新しい美術の潮流が生まれ、後の芸術に多大な影響を与えました。1920年代、両大戦間の時期、パリには、さまざまな国から芸術家が集まります。特定の様式や流派にとらわれず、個々の表現を追求した画家たちは、のちにエコール・ド・パリ（パリ派）と呼ばれるようになりました。

本展は、茨城県笠間市にある笠間日動美術館のコレクションより、モネやルノワールら印象派から、シャガールやピカソまで、17作家による約100点によって西洋近代絵画の魅力をご紹介します。

ピエール＝オーギュスト・ルノワール
《泉のそばの少女》1887年
笠間日動美術館蔵

函館美術館

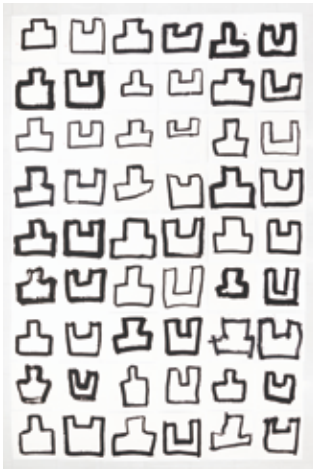
ことばと絵　くりかえしのアート

7月15日（土）～9月24日（日）

本展は「くりかえし」をテーマに、反復する表現や技法のおもしろさを絵画や書などの作品をとおして楽しむものです。会場では、山村暮鳥の詩のことば「いちめんのなのはな」を14回並べ、菜の花畑を想起させる紙面を構成した金子鷗亭の書をはじめ、たくさん並べることでインパクトを与えるアンディ・ウォーホルの《キャンベル・スープⅡ》や、古典をくりかえし学ぶために制作した臨書の作品などを取り上げます。さらに、一つの型から複数の作品が作られる版画やブロンズ彫刻にも注目。所蔵作品を中心に、「くりかえし」から生まれる多彩な作品を紹介します。

また、道南や青森地方で活躍する障害のある作家の制作した、同じことばやモティーフを書き続けた作品も展示。これらからは、題材への思いが強く伝わってきます。

さまざまな「くりかえし」から生まれてくる表現の魅力をご堪能ください。



俊文書道会《凸凹》2020年
俊文書道会蔵

帯広美術館

見えない音を描く
6月24日(土)～8月20日(日)

人々が作り出すざわめき、奏でられる音楽など、画家や彫刻家は、目に見えない音を様々な手法で美術作品にあらわしてきました。今回の展覧会では、音を美術として表現した絵画や立体作品を展示します。祝祭での華やかな群衆や奏でられた音楽を表現した絵画からは、活気ある音または美しい音色が聞こえてくるようです。楽器をモチーフとして描いた静物画や肖像画を見ると、楽器の造形的な面白さや、表された人物の職業・ステータスを知ることができます。また、音を感じ取る体験をテーマとした作品もご紹介。音を見えるかたちに具象化した作品を通して、目と耳の感覚の関係を考えることを提案します。

片岡球子《阿波風景》1963年　北海道立近代美術館蔵

釧路芸術館

開館25周年記念 奈良原一高 写真展 時空をこえた光
4月22日(土)～6月18日(日)

奈良原一高(1931－2020)は戦後日本を代表する写真家です。早稲田大学大学院在学中の1956年に九州の産炭地等に取材した作品「人間の土地」を個展で発表、大きな反響を呼び、写真家として本格的な活動を開始します。その後はトラピスト修道院と和歌山の女子刑務所という、外界から隔絶された場所に生きる人間の姿を主題にした作品「王国」をはじめ、国内外の風景を題材に、都市や自然の様相をとらえた写真の制作を続けました。奈良原の写真は、新鮮な映像感覚と深い思索に裏付けられた詩情豊かな表現を特徴とするものであり、現代写真のさきがけとなった一人として、国内外で高く評価されています。本展は作家の没後、遺族より当館および北海道立函館美術館へ寄贈された作品により、作家の代表作を中心にご覧いただきます。

奈良原一高
《ヨーロッパ・静止した時間　WTS-095 Venezia》
1965年 プリント年:1975年
北海道立釧路芸術館蔵
©NARAHARA IKKO ARCHIVES

札幌芸術の森美術館

札幌芸術の森野外美術館
4月29日(土・祝)～11月3日(金・祝)

起伏に富んだ緑豊かな自然のなかに広がる7.5ヘクタールの敷地には、日本を中心とした現代を代表する彫刻家の作品や、ノルウェーの彫刻家グスタフ・ヴィーゲランの作品、札幌の姉妹都市からの寄贈作品など、64作家74点の彫刻を展示しています。作品の多くは、作家がこの地を実際に訪れ、地形や周囲の状況、札幌の気候などをもとに、それぞれの場所のために新たに制作されたものです。開放的な空の下、あるいは森の中で、彫刻との出会いをお楽しみください。

平日午後と土日祝は解説ボランティアによる作品解説を開催。クイズを解いて楽しめる「彫刻鑑賞ノート」や作品のシールを貼ってマップを完成させる「野外美術館シールマップ」のほか、音声解説「ポケット学芸員」もご用意しています。お子さんの彫刻鑑賞や親子のコミュニケーションのきっかけ、お一人でのじっくりと時間をかけての作品鑑賞にもぜひ、ご活用ください。

ダニ・カラヴァン《隠された庭への道》
1992～1999年

本郷新記念札幌彫刻美術館

彫刻60年 鈴木吾郎展　悠久を舞う
4月29日(土・祝)～8月27日(日)

小樽を拠点に活動を続ける彫刻家鈴木吾郎(1939～)といえば、温もりさえ感じられる焼き土の色と肌合が特徴的な女性像が真っ先に思い浮かぶのではないでしょうか。柔らかに屈曲した姿態や交差する腕や脚、端麗に伸びる指先は、極めて繊細で軽やかです。それは、西洋的な具象表現を取り入れつつ、土器や埴輪にも通じる素朴な技法のなかに凛とした東洋的精神の発露を求め、生まれてきたものです。

北海道学芸大学札幌分校卒業を出発点とする彼の彫刻家としての歩みは60年を超えます。本展では、1980年以降に本格化するテラコッタ作品を中心に、初期から現在までをたどります。また、道内各地に設置したブロンズによる約60点の公共彫刻もあわせて紹介。会期中、小樽潮陵高校や札幌西高などの美術教諭として学生個々の才能を伸ばす優れた指導者でもあった側面を自ら語る講話など、関連事業も数多く実施します。

鈴木吾郎《20世紀の女》2000年
札幌芸術の森美術館蔵

MUSEUM CALENDAR
2023.4〜2023.10

は特別展示室　は常設展示室
濃色はアートギャラリー北海道

美術館のおもな展覧会ご案内

	4	5	6	7	8	9	10
近代美術館	〜4/2(日) サンリオ展 ニッポンの カワイイ 文化60年史	4/22(土)〜6/11(日) トリック×イリュージョン!		設備修繕工事 のため休館		9/16(土)〜11/12(日) 札幌テレビ放送創立65周年記念 足立美術館所蔵 近代日本画と北大路魯山人展 —和の美、再発見。	
	〜4/9(日) ・シャガール・イン・プリント ・この1点をみてほしい 伊藤隆介 《こんなことは無かった》 ・戦時下の北海道美術	4/22(土)〜6/11(日) ・美しいものとの時間 友田コレクションの精華 魅惑の版画と詩 ・昭和のガラス工芸 ・新収蔵品展				9/16(土)〜11/12(日)特別展 ・揺さぶる絵 変貌する日本画のイメージ ・アール・ヌーヴォー 自然を映しだすガラス ・小川原脩記念美術館コレクション展	
						TEL 011-644-6882 道近美 検索	
三岸好太郎美術館	〜4/18(火) デコボコンポジション 《立てる道化》が 絵本になった!	4/29(土・祝)〜7/5(水) 道産子が行く。		7/15(土)〜9/26(火) おばけのマールとたからもの			
						TEL 011-644-8901 mima 三岸美術館 検索	
旭川美術館		4/15(土)〜6/25(日) 笠間日動美術館コレクション 魅惑の西洋近代絵画 モネ、ルノワールからピカソ、マティスまで		7/8(土)〜9/10(日) こころ・おどる・ものがたり 〜絵本原画・本の宝石・おもちゃ・アート〜		9/23(土・祝)〜11/19(日) 竹久夢二展 〜憧れの欧米への旅〜	
		4/15(土)〜6/25(日) パリへ渡った画家たち		7/8(土)〜9/10(日) アートとデザインの空間 遠藤享展		9/23(土・祝)〜12/10(日) 木の匠たち 伝統工芸から家具、クラフトまで	
						TEL 0166-25-2577 旭川美術館 検索	
函館美術館		4/29(土・祝)〜6/25(日) 新・山本二三展	7/1(土)〜7/7(金) 第64回北海道書道展函館展 主催／北海道新聞	7/15(土)〜9/24(日) ことばと絵 くりかえしのアート			
	〜4/16(日) 新収蔵品展／ 鼈亭と牧水	4/29(土・祝)〜9/24(日) 生誕100年 鎌田俳捺子展／書との出合い 大塚鶴洞、川谷尚亭、比田井天来					
						TEL 0138-56-6311 函館美術館 検索	
帯広美術館		4/22(土)〜6/11(日) オンラインアート教室授業 丘の上のミュージアム、とっておき10選		6/24(土)〜8/20(日) 見えない音を描く		9/9(土)〜11/19 (日) リサ・ラーソン展 知られざる創造の世界 -クラシックな名作とともに	
		4/22(土)〜6/11(日) ポスターに乾杯!		6/24(土)〜8/20(日) 静かに流れる—思索を誘う版表現		9/9(土)〜11/19 (日) Home	
						TEL 0155-22-6963 帯広美術館 検索	
釧路芸術館	〜4/9(日) アートに耳を かたむけて 絵画と彫刻から 聞こえる「音」	4/22(土)〜6/18(日) 開館25周年記念 奈良原一高 写真展 時空をこえた光		7/1(土)〜9/3(日) 開館25周年記念 ヨーロッパ近代絵画の巨匠たち モネ、ルノワール、セザンヌ、ピカソ、マティス… 笠間日動美術館コレクション		9/16(土)〜11/12(日) 開館25周年記念 あなたはイヌ派？それともネコ派？ ディズニー キャッツ＆ドッグス展	
	〜4/9(日) 追悼 彫刻家・ 中江紀洋	4/22(土)〜6/18(日) ハコビ・コレクションのお宝 北海道立函館美術館コレクション名品選		7/1(土)〜9/3(日) 田園の夢 帯広美術館名品選 バルビゾン派の世界		9/16(土)〜11/26(日) たのしいワン！かわいいニャン！ かものももちゃんと見るCats & Dogs	
		4/22(土)〜6/18(日) 釧路芸術館のニュー・フェイス					
						TEL 0154-23-2381 釧路芸術館 検索	
札幌芸術の森美術館		4/15(土)〜6/11(日) 札幌美術展 艾沢詳子 gathering—集積する時間		7/8(土)〜9/3(日) STV創立65周年記念 チームラボ 学ぶ！未来の遊園地と、 花と共に生きる動物たち		9/16(土)〜11/23(木・祝) 深堀隆介展 水面(みなも)のゆらぎの中へ	
		4/29(土・祝)〜11/3(金・祝) 札幌芸術の森野外美術館					
						TEL 011-591-0090 芸術の森美術館 検索	
本郷新記念札幌彫刻美術館	〜4/16(日) New Eyes 視線のはなし	4/29(土・祝)〜8/27(日) 彫刻60年 鈴木吾郎展 悠久を舞う				9/16(土)〜12/17(日) 彫ってない彫刻	
	〜4/16(日) コレクション展	4/29(土・祝)〜2024/5/26(日) コレクション展 石と木					
						TEL 011-642-5709 本郷新彫刻美術館 検索	

○開館時間 9：30〜17：00 （入館は 16：30 まで）
※芸術の森 9：45〜17：00（6 月から 8 月は 17：30 まで） ※札幌彫刻美術館 10：00〜17：00（入館は 16：30 まで）

○休 館 日 ●毎週月曜日（月曜日が祝日又は振替休日のときは開館、翌火曜日休館）●年末年始（12/29 〜 1/3）●展示替え期間（展覧会と展覧会の間）
※芸術の森 5月〜 10月無休（展示替期間は休館）
※施設により臨時休館、臨時開館の場合もありますので、各施設のホームページでご確認いただくか施設にご確認願います。

※会員証の利用について 貸館の観覧は会員証が利用できない場合がありますので、ご了承願います。
※［アートギャラリー北海道］は、道内の美術館がネットワークでつながり、双方向でアートを紹介・発信することにより、北海道全体がアートの舞台となることを目指す取組みです。

近美 Museum Shop

春をむかえバラエティに富んだグッズが満載！
鑑賞の後にはぜひお立ち寄りください。

FLATS 兎/rabbit 103　1,540円

LOQI エコバッグ　1,760円

VASE　1,430円

三恵メガネケース
メガネクロス付き
各1,320円

三恵３Dノート
各495円

サンフレスコアクセサリー
サンゴ4,200円　バラ12,000円

アトリエ陶有伽（岩寺かおり作品）
カップ2,750円　小箱2,750円

紅露はるか
ポストカード各150円

紅露はるか
缶バッチ各360円

ご入会ありがとうございました　新会員紹介　2022年8月～2023年2月・敬称略

＊個　人　会　員

８月

札幌市　佐藤京子
〃　佐々木倫子
〃　成田裕子
〃　伊藤安子
〃　玉木裕
〃　玉木夕子
〃　小野寺麻奈美
〃　岡村幸枝
〃　黒田美枝
〃　金川則子
〃　石塚史記子
恵庭市　前田真弓
江別市　嶺初幸
〃　嶺ゆみ子

９月

札幌市　小田嶋慶子
〃　秋松伸夫
〃　村田亜矢子
〃　佐々木明子
〃　伊藤修
〃　市川精司
〃　市川洋子
〃　田中宜久
〃　田中英里子
〃　河内多加子
〃　森田郷子
〃　秋江喜代子
〃　名尾みどり
〃　石原眞知子
札幌市　西野幸子
〃　横山穣
〃　上野正芳

10月

札幌市　西野孝行
〃　今村清美
〃　和野徳子
〃　今野愛子
〃　山本亜紀子
〃　角丸貴美代
〃　吉岡保子
〃　浪岡美保
〃　田中一生
〃　工藤香織
札幌市　岩崎裕美子
〃　井田幹雄
〃　高橋彰子
〃　平井弘子
旭川市　稲沢栄
〃　稲沢美香
恵庭市　杉岡正三

11月

札幌市　植田英隆

１月

札幌市　島崎聡子
〃　長谷川順子
〃　安田浩子
札幌市　坂口由美子

２月

札幌市　佐藤泉
〃　林純恵

（アルテピア HP）

美術講座プレミアムを終えて

今年度、美術講座は開催を心待ちにしていた95名の受講者を得て、3年ぶりに10回の講座を実施できました。また、美術講座プレミアムは美術講座からの受講も含め67名の受講者で5回の講座を実施しました。

講師の方々の幅広いテーマに沿った講座は、「聴きごたえがあった」「深く掘り下げられた内容だった」「新しい分野の話が聞けて刺激になった」などの感想や「今後扱ってほしいテーマ」などのご意見をいただき、無事終えることができました。

来年度も感染防止対策を講じての実施と思いますが、さらに多くの方が受講できることを願っています。

ジュニア・アート・クラブ（JAC）を初めてリモートで開催して

今年度のJACは初のリモート開催としました。コロナ禍で2年間実施を見送っていた中、事業の継続を目的に苦心して考えた企画は、参加者4組8名の親子には好評でした。事前に参加者に郵送したのは最低限の材料（風船・障子紙・のりなど）と作り方だけ。ご自宅にある素材を活用いただき、バラエティに富んだ作品ができました。1・2回目は事務局とリモートでつなぐ作品制作、3回目には近美に作品を持ってギャラリーツアーを楽しむという複数回のプログラムも初めてでしたが、お子さんと保護者の方たちに美術館まで来ていただくには効果的でした。今回の経験を生かして安心して楽しんでいただけるよう、JACを続けていきたいと思います。

ボランティア活動の紹介 第1回　広報部

広報部はボランティア活動に関する様々な情報発信をしています。会報誌「アルテピア」の編集・発行を年2回行っており、原稿の依頼、取材、撮影、作稿、割付、校正という工程を経て冊子として出来上がった時の喜びは格別なものです。発行物としては他にも部員同士のコミュニケーション交流紙「あんてな」（年3回発行）、5年毎に各部の活動をまとめる記念誌「あゆみ」があり、また、近代美術館内のPRコーナーの管理やホームページの更新も部員の手で行っています。

北海道美術館協力会のボランティア活動を外部へアピールするために、部員のみんなで楽しく頑張っています。

編集だより

■なかなか収束が見通せないコロナ禍、いろいろな制限を強いられる日々が続き、オンラインやリモートによる新しい働き方や生活様式が増え、変化もスピード感を増しています。
そんな中、開催された展覧会を訪れる多くの人々を見て、皆さん美術館に足を運び、直に作品に触れる機会を待っていたのだなぁと感慨深く思いました。
改めて感動や憩いの場としての美術館の存在を感じ、魅力ある美術館情報を丁寧にお知らせして行きたいと思います。（MW）